

## 2011国際森林年メッセージについて（案）

平成23年10月 日

国際森林年国内委員会

国際森林年国内委員会は、今年が国際森林年であることを契機に森林・林業の意義を多くの国民の皆様にお伝えし、来年以降も継続的かつ積極的に私たち国民が一丸となって森林を支えていこうという機運を醸成できるよう、メッセージと行動提案を発出します。

世界の森林は今、過剰な伐採などによる森林破壊が問題になっています。そして、地球温暖化、生物多様性の損失、砂漠化の進行など、地球規模の環境問題を引き起こしています。

海外では守るべき森林が減っている一方、日本にはきちんと手入れをせず、放置されて適切な管理・利用が難しくなっている森林があります。これは、清らかな水と美しい国土を守り、様々な生きものの住処となる我が国の森林にとっての危機です。また、今年3月の東日本大震災を経て、私たちは改めて資源の活用の仕方を見直す時期にきています。

このメッセージと行動提案は、豊かな森林を守り育てていくこと、そのために私たち一人一人が具体的に行動することが重要であることへの理解を深めるためのものです。また、個人や企業・団体が自ら認識として共有し、その認識の下で行動するための指針とします。そして、国内委員が積極的にこれらの行動をサポートしていくことを宣言します。

## 1．2011 国際森林年メッセージ

緑豊かな美しい国土を次世代に残し、いつまでも豊かな森林の恵みを楽しむために、国民一人一人が森林の重要性を認識し、森林の持続可能な管理・活用ができる社会を目指して、国際森林年国内委員会は下記のメッセージと共に行動提案を発表し、国民の皆さまとさらに積極的に取り組んでいきます。

- (案1) 22世紀へ、豊かな森を。
- (案2) 森を育む。  
人を育む。  
日本を育む。
- (案3) 森のチカラで、日本を元気に。

## 2．我々一人一人が取り組みたい行動の提案

国際森林年国内委員会は、1のメッセージとともに、以下の行動提案を推進し、実際に行動している個人や企業・団体を積極的にサポートしていきます。

この行動提案は、林業に携わる方から都市住民、産業界、行政や関連団体まで幅広く対象とします。森林・林業の関係者に加え、社会全体で森林を支えていこうという国民運動を推進するものです。

## <人づくり>

1. 幼少期から森林や木に親しみ、様々な世代の方々が森林や木を身近に思えるような森林体験活動を推進します。
2. 次代を担う子ども達に学校や社会において「森林・林業の役割」、「木づかい」の大切さを伝えていきます。
3. 森林の適切な管理や利用を担う技術者・技能者の養成を積極的に行います。培われている技術・文化の情報を積極的に伝達します。
4. 日本の森林を活かし、山村が活性化するアイデアをみんなで考え行動します。そして農山村と都市との交流を積極的に進めます。
5. また森林・林業にかかわる人や新たに山村に住もうとする人たちのための生活環境を整備します。

## <森づくり>

1. 経済活動において、日本の森林を活かし、森林づくりに貢献する仕組みを構築します。
2. 世界有数の豊かな森林資源の保全・活性化に注力し、持続可能で生物多様性豊かな森林づくりを計画的に行います。
3. 森林の適切な管理や利用のため及び森林に親しむための道などの整備を行います。
4. 身近な緑を大切にするとともに、里山や森林の整備・保全を推進します。また、このような活動を積極的に募金などで支援します。
5. 地域材を積極的に使うなど、関係者でまとまって森林保全活動を推進します。

### <木づかい>

1. 地域振興や森林整備につながるよう、安全で効率的に木材生産ができる技術を開発・普及します。
2. さまざまな関係者と連携し、森林資源を活かした産業の伝承と創出を推進します。
3. 緊急時に備えた都市向け資材のストックを行います。
4. 価格や意義など地域材に対する正しい情報を発信し、地域材の選択・利用を推進します。木材を豊かに利用する文化を醸成します。
5. 森林資源を活用したライフスタイルの提案・転換を行います。

### <震災復興>

1. 雇用と林業収入機会創出に向けて森林関連産業を振興し、地域材を活用します。
2. 津波を減災する海岸林など、震災の被害に備えた豊かな森づくりを行います。
3. 木材のカスケード利用を進めながら、多様なエネルギー源として木質バイオマスを積極的に活用します。
4. 地域の復興をめざした森林づくりを積極的に進めます。また、そのための支援を行います。